

平成28年度 重点目標

1 めざす生徒像「変化に柔軟に対応できる吉中生の育成」

2 重点目標

行きたい学校 学びたい授業

- ① 意欲を育て、主体的に学ぶ授業の研究と実践 ～ わかる授業の創造から ～
- ② いじめを許さない集団づくり
- ③ 自主性を高める行事の創造

3 平成27年度学校協議会からの評価と提言

教育課程について

- ・授業の工夫は良い結果を生んでいる。 ・3年生の授業時数確保に向けての努力が必要。
- ・計画に対しての取り組みは年々成果が上がっており、大変評価できると感じられる。
- ・成績評価を絶対評価にするうえで、よりいっそう各教科での適切な授業の目標、内容、評価規準、評価基準の策定が必要であり、評価規準・基準の説明責任も伴っていると考える。誰もが納得し、生徒のやる気が高まり、その能力が向上するような授業と評価になるよう真剣に検討することが必要。
- ・少人数指導や習熟度別授業については、保護者の評価も高く、生徒も安定して高い評価を下している。実際の成績推移を見ても顕著な結果が出ており、授業活動として高く評価できる。計画的安定的な取組になるよう、恒常的な教員の増員配置・加配を教育行政に強く要望し続けることが必要。

生徒指導について

- ・問題行為に対する指導の基準性と生徒へのフォローが大切である。外部の専門機関との連携も視野に入れ、ていねいな指導が望まれる。
- ・不登校やいじめ事象が多発していないこと、また表面化した事例に対して早期にしかもていねいに対応されていることが数字の上からも評価できる。専門教員（こども支援コーディネーター）の加配の効果が如実。常時定員内配置を強く要望したい。・「学校へ行くのが楽しい」の高評価は大変喜ばしいことである。今後も生徒個々との信頼関係をより親密なものとして、いっそう楽しい学校づくりをしていただきたい。
- ・「将来の夢・目標」吉中生の一番の課題。入学時より将来どのような仕事につきたいかなどをじっくりと考えて、職場体験学習等に活かされるような工夫が必要。
- ・全体的に、学校内での連携、学外からの人員の投入などから、生徒は大切に思われて支援されているという実感を得ていると思われる。また、クラブ等、学校運営への生徒の関与、PTA との意見交換会などから、育てられているだけでなく、運営にも関わっている自負も育ってきている。さらに望むべきは、社会の中での一員としての自覚を育てることも必要と思われる。各教科学習の中で、生徒の未来を指し示すような示唆も必要と思われる。
- ・欧米やアジア諸国と比べても、日本の青少年の「自己の将来」に対する否定的傾向は際立っている。もちろん日本の社会・教育の根本的課題としておとなの我々の大きな責任であるのだが、「志をもった自立した人間」の育成が教育のもっとも大きな役割だとすれば、まず何より子どもたちには将来の夢や希望につながる「自尊感情」「自己肯定感」が育成されていくよう導いていく必要がある。

学校の危機管理について

- ・計画に対して適切な取組が行われている。
- ・情報発信はていねいにされている。生徒に学校だより等を読む時間を設定してはどうか。
- ・「学校だより」や「進路通信」など、学校からの情報発信については、保護者・生徒とも発信活動そのものは評価しているのに、子どもたち自身は余り目を通していない。内容や目的が保護者向けに限定されているのならやむを得ないが、それならむしろ子ども達に向けたメッセージ・語りかけ・アピールを盛り込んだ媒体・方法を考えるべきである。
- ・給食に関しては、2年目の本年は前年度に比べて評価が上がっている。今後、少しでも食べ残しを減らしていく工夫が必要である。
- ・給食については様々な制約・条件の下で業者サイドも苦労されていることと思うが、保護者・生徒とも肯定的回答が20%程度という現実、制度そのもの或いは制度の運営に大きな問題があり、抜本的な改善が

必要であろう。

本校の将来像と信頼される学校づくりについて

- ・将来の小中一貫教育へ向け、各小学校との交流をより深める必要がある。
- ・保護者・生徒とも前年度に比べ肯定的回答が増えている項目が多く見られ、多岐にわたる教職員の努力に敬意を表したい。教職員が、自分たちの実践をどう評価・分析しているか、教育ビジョンや教育目標を共有できているかを知るためにも、教職員対象の自己評価アンケートもぜひ実施していただきたい。・様々な取組が少しずつ成果をあげつつあると思われるが、より地域との交流を図り、信頼されると共に開かれた学校づくりに励んでいただきたい。
- ・吉中では、トータルで非常に良い教育をされていると考えられる。それだけに良い高校教育とその後の教育を受けてほしいと願う。進路指導に当たって、成績だけでなく、その生徒の将来を見据えたオーダーメイドの指導を期待する。
- ・生徒数の減少により、人間関係が閉鎖的・固定化することがないように工夫する必要がある。他行との積極的な交流を図ることも必要。
- ・職場体験や出前授業については今後も継続していただきたい。
- ・寝屋川の中学生、川崎の中学生の痛ましい事件をふまえ、吉川中学校の生徒の誰もがそのような悲惨な事件に巻き込まれないよう、中学校でも随時、生徒へは防犯、非行などについて注意喚起をしていただきたい。
- ・各先生には指導者としてふさわしい行動規範があると思います。喫煙や言葉使いについては、生徒の模範となるよう努めていただきたい。
- ・週五日制・授業時数の確保の中で、学校行事を精選していかなければならないのは理解するが、行事や活動の中で子どもたちが成長していく部分が大切だと思うので、従来あった球技大会や文化祭などのそのままの復活というのではなく、子どもたちの自主性や独創性を発揮させられるような企画がないものか。たとえば球技大会にしても生徒会や運動部主体で自主運営させてみるとか。教員の側が、選んで吟味して、失敗しないように完全プログラム化され、与えられたものを消化するだけの行事にならないように望む。

4 平成28年度具体策

○ 教育課程について ～授業力の向上～

- ①授業時間数の確保。
- ②主体的に学ぶ授業の研究
- ③全ての学年に道徳副教材を購入し、年間計画に基づき指導する。
 - ・授業公開週間（10月31日～11月4日）を継続すると共に、地域人材を活用した授業内容を創意工夫する。
- ③配置された加配教員（数2、英1）を最大限活用して、数と英の習熟度別指導の実施率を50%に上げ、学力向上に努める。
 - ・チャレンジテストに対応できる授業展開を行う。
 - ・教科と領域指導の中で、集中力、情報を収集し、処理する能力の育成を図る。
 - ・生徒の自学自習力の向上のため、学生・地域人材活用等ボランティアを活用した放課後（主にテスト前）の補充学習を行う。年間目標50回。
 - ・授業力の向上に努め、生徒の学力向上や進路の幅の拡大を図る。研究授業と地域に開く公開授業習慣をもつ。
 - ・生徒による授業アンケートを実施する。
 - ・府、全国、諸団体等の作品展、読書感想文等のコンクールに積極的に参加、応募する。
- ④支援教育、通常の学級に在籍する支援の必要な生徒への支援、通級指導の充実を図る。
 - ・個別の支援計画は保護者の同意のもとに作成する。
 - ・支援生徒の学力、生活力の向上のため、支援学級指導のあり方について検討する。
 - ・原学級での指導のあり方や目標設定を明確にして、常に保護者との連携を図り、効果や課題を共有する。
 - ・小中、中高連携のため、進路先や校区の小学校等へ積極的に訪問する。
- ⑤目標に準拠した評価のあり方を研究し、生徒の意欲を高める授業へと結びつける。

○ 生徒指導について ～よりそう指導をとおして集団づくりを～

- ①生徒の生活の原点を見据えた指導を行う。困った生徒はいない。困っている生徒はいる。
 - ・生徒によりそい、保護者・地域とのつながりを密にする。トラブルから学び育てる姿勢を。
 - ・挨拶から始まり、つながる人間関係づくりを進める。生徒会やPTAとともに挨拶運動の展開。
- ②いじめを許さない集団づくりをめざす。
 - ・道徳、総合、学活などを通じて、体験的取組を創造すると共に、各種行事での集団づくりをめざす。
- ③学校での生活環境を整える。
- ④不登校0、いじめ早期解決をめざす。
 - ・スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー、家庭支援、相談員等、配置された学校支援者と協働で取り組む。
 - ・学校生活・いじめ等アンケートを1回／学期（7、12、3月）実施する。
 - ・学年別諸課題は、こども支援コーディネーターが具体策を提示し、管理職、生徒指導主事、学年生徒指導担当者、学級担任、学年団、関係職員等、学校総体で取り組み、早期解決を図る。
- ⑤明確な目標を設定し、クラブ指導を行う。
- ⑥生徒会等生徒代表者と学校協議会やPTA役員との意見交流会を行い、課題解決に向けて学校総体として取り組む仕組みづくりを行う。
- ⑦生徒のコミュニケーション力や社会性を高める機会を設ける。
 - ・3年生：修学旅行、進路相談。 2年生：職場体験学習、校外学習。 1年生：福祉体験、職場訪問、命の大切講演会。
 - ・ふれあいのつどい：9月10日（土）に実施予定。
 - ・放課後、土曜日自習学習会（主にテスト前）

○ 学校の危機管理について ～報告・連絡・相談・点検の徹底～

- ①コンプライアンスの徹底を図る。
 - ・ルールを守る。信頼に応える。
- ②学校の事故防止のため、日常の安全点検、報告・連絡・相談を行う。学校協議会や関係諸機関との連携を密にする。
- ③学校情報を透明化し、積極的に発信する。
 - ・学校だより、学年・学級だより、進路だより、保健だより、図書だより、等を定期的また随時発行する。
- ④学校文書、公金、諸経費等の管理は、教育委員会やPTAの監査を受ける。
- ⑤生徒・保護者・地域への学校ルールの指導と統一と徹底を図る。
 - ・学校協議会、PTA各種委員会、地域の諸会議時に、学校のルールや現状の情報発信を行い、学校総体としての仕組みづくりを行う。
 - ・防犯教室、避難訓練等、複数回実施する。

○ 本校の将来像と信頼される学校作りについて ～生徒の意欲と自主的行動力を育てることを～

- ①授業参観（4月16日、6月3日）と授業公開週間（10月31日～11月7日）を実施する。
- ②学校教育活動に地域等のボランティアとPTAの支援を積極的に活用して、学力、学習の充実・クラブの支援などを図る。
- ③小規模化に伴う、学校運営のあり方を検討する。
- ④小中一貫教育推進を図る。

- ⑤学校協議会では、学校が、保護者や地域住民等の信頼にこたえ、家庭や地域と連携・協力して、一体となって生徒たちの健やかな成長を図るため、様々な視点の幅広い意見を求めるとともに、学校関係者評価に取り組んでいただく。